

平成 22 年 3 月 31 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2009

課題番号：18520510

研究課題名（和文） 明治期の談話筆記・回想録の総合的研究

研究課題名（英文） A comprehensive study in the works of oral histories and
Memoirs in the Meiji Period

研究代表者

松尾 正人 (MATSUO MASAHIRO)

中央大学・文学部・教授

研究者番号：00157265

研究成果の概要（和文）：

本研究は、明治期の談話筆記と回想録の総合的研究をテーマとし、第1に明治中期に組織された史談会と同会が刊行した「史談会速記録」の全体像を追究し、その特質を分析した。第2に史談会幹事の岡谷繁実の活動を追究し、談話筆記作成の実態とその問題点を明らかにした。第3に各地の談話筆記と回想録を調査し、特に山口県文書館が所蔵する長州藩関係者の談話筆記や各種の日記・略伝などを収集してその内容を研究した。第4に高知県佐川町の青山文庫で田中光顕関係史料の調査・収集を行い、田中の回想録や伝記類に関係した史料を分析し、「史談会速記録」や伝記類に記述されなかった維新政治の裏面を解明した。

研究成果の概要（英文）：

“Shidankai” was organized in the middle of the Meiji, which drew oral histories out of the main contributors to the Meiji Restoration and recorded them in the shorthand notes called “Shidankaisokkiroku”. While the biographies of those prominent figures were compiled at “Shidankai”, Shigezane Okanoya (岡谷繁実) took the initiative in conducting interviews with the rest of those involved in the Meiji Restoration. Before long, some of those involved like Mistuaki Tanaka even wrote their memoirs spontaneously. The author conducted searches for archives of “Shidankai” and related matters in Yamaguchi Prefectural Archives and Seizan-Bunko and analyzed them comprehensively to set out some considerations of oral histories and memoirs in the Meiji Period.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,300,000円	0円	1,300,000円
2007年度	600,000円	180,000円	780,000円
2008年度	600,000円	180,000円	780,000円
2009年度	800,000円	240,000円	1,040,000円
年度			
総計	3,300,000円	600,000円	3,900,000円

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：①近・現代史 ②史料学 ③政治史 ④政治思想史 ⑤文化交流史
⑥談話筆記 ⑦回想録 ⑧アーカイブズ

1. 研究開始当初の背景

明治期に作成された談話筆記や回想録は、貴重な歴史資料として注目されてきた。代表的な談話筆記としては、明治 25 年に第 1 輯が出版された「史談会速記録」がよく知られている。

しかし、談話筆記や回想録にどのようなものがあり、それが明治・大正期のいつ頃に、いかに編集・出版されたかなど、基礎的な把握は十分でない。特に談話筆記は、「史談会速記録」だけでなく、「温知会講演速記録」「名家談叢」などがあり、各地にこれまで活用されていない談話筆記や回想録類が数多く存在し、その実証的研究が急務となっている。

また、談話筆記や回想録は、概して本人が晩年に話し、記録したものであるだけに、その内容に関する吟味と史料的な裏づけが欠かせない。談話筆記や回想録の検証については、それらの作成の背景と目的、聞き取りや準備作業の実態、その編集・出版の過程などについての具体的な分析が不可欠である。これまで知られていなかった明治期の談話筆記・回想録類の全体的な把握を行うとともに、談話筆記等の作成の時代的背景、および編集・出版に至る過程を追究し、総合的研究の立場からその歴史的意義と課題を明らかにすることが必要となっている。

2. 研究の目的

(1) 明治以降に作成・出版された談話筆記や回想録の全体像を追究する。談話筆記類は、これまで柳生四郎・朝倉治彦編『幕末明治研究雑誌目次集覧』が昭和 43 年に出版され、「史談会速記録」「旧幕府」「温知会講演速記録」「名家談叢」などの記録が明らかにされていたが、同書にすべてが網羅されているわけではない。地方の文書館、資料館、図書館の所蔵目録、所蔵資料を調査し、『幕末明治研究

雑誌目次集覧』に掲載されなかった新たな談話筆記や回想録を収集して、それらのより総合的な把握をめざす。

(2) 明治 25 年に「史談会速記録」第 1 輯を刊行した史談会について、その設立の背景を的確に把握し、聞き取りの中心となって編集・出版に尽力した幹事岡谷繁実の活動を具体的に明らかにする。

史談会は、明治 22 年に島津家その他 6 雄藩家と三条・岩倉伝記編輯委員などの会合にはじまるが、その背景に島津・毛利・山内・徳川 4 家に対して、宮内省から明治 21 年に国事鞅掌始末詳細取調の下命があった事情が存在する。この史談会は、明治 45 年までに 231 輯の速記録を発刊し、それ以後も昭和 13 年まで続いて総計 411 輯を刊行した。それらは国事鞅掌に関する関係者の実歴談が中心で、幕末・維新期の政治・戦記・人物に関する重要な記録となっている。

この史談会の幹事として尽力した岡谷は、幕末の尊王論者として山陵修補に関係し、館林の秋元家が長州の毛利家と姻戚関係であったことから、幕末の長州征討に際して長州藩赦免に尽力した。岡谷は脱藩した後、京都の朝廷関係者と結んで討幕運動に参加している。慶応 4 年には草莽の高松隊の参謀となって東征に参加し、その後行政官出仕、岩代国巡察使附属、若松県大参事、水沢県参事、内務省七等出仕、内務省少丞などを歴任した。修史館御用掛となり、長慶天皇の事蹟調査や金沢文庫の再興に関係したこともあって、史談会の幹事に任じられた。晩年には『皇朝編年史』などの歴史編纂に尽力しており、岡谷の人物とその活動の実態的な解明が、「史談会速記録」作成の背景を検討するために欠かせない。

(3) 山口県文書館をはじめとする同県内の資料館・図書館に出張し、第 2 次征長戦争関

係の談話筆記・回想録を具体的に調査・収集する。特に岡谷繁実自身が慶応2年に岩国で長州藩側に拘留されており、長州藩赦免・征長阻止運動を行った岡谷に関する長州側の対応を追究する。岡谷自身の幕末維新の体験が、談話筆記・回想録等でどのように記述されたのか、長州藩側の史料の検討を通じてその実態分析を行う。

(4) 山口県文書館・同県立図書館や同県内の各地の資料館・図書館には、数多くの長州藩関係者の談話筆記と回想録類が残されている。まず山口県文書館・同県立図書館所蔵史料をはば広く調査し、談話筆記と回想録に関する基礎的史料の把握と分析を進める。それらの検討を通じて、これまで等閑にされていた歴史的な事実を指摘するとともに、明治期の談話筆記・回想録の特質と課題を明らかにする。

(5) 高知県立図書館、高岡郡佐川町青山文庫などの調査を行い、土佐出身の田中光顕に関する談話筆記・回想録およびその原稿などの基礎的史料を収集・調査する。田中は元老院議員や宮内大臣などの要職を歴任し、宮中政治家として昭和14年に逝去するまで大きな力を持った。この田中に関する幕末・明治期の談話筆記・回想録を分析し、その資料的な吟味、内容的な課題を検討する。

(6) 上記のような明治期の談話筆記・回想録の調査研究を通じて、近年に注目されているオーラルヒストリーの意義と課題を考察する。

3. 研究の方法

(1) 談話筆記類については、最初に『幕末明治研究雑誌目次集覧』を活用し、さらに国会図書館をはじめ各施設の目録を通じて不十分な点を確認し、全体的な把握を行う。昭和46年に原書房から復刻された『史談会速記録』全46巻の利用が便利で、その内容に

そった整理を実施する。具体的には、王政復古、戊辰戦争、草莽隊、府県設置などの項目を設定し、各談話筆記を分類するとともに、その概要をパソコンに打ち込んでいく。「史談会速記録」に加えて、「旧幕府」「名家談叢」などの写真撮影・複写を行い、その整理・分類を重ねることで、それぞれの特色と課題を把握する。

(2) 明治期の談話筆記・回想録作成に携わった史談会幹事の岡谷繁実を取り上げ、その活動を追究する。館林藩出身の岡谷の膨大な史料は、館林市立図書館と国文学研究資料館に収蔵されており、それらを調査・収集して、談話筆記・回想録作成の実態を具体的に考察する。『名将言行録』や『皇朝編年史』などの多くの史書を著述した岡谷については、写本や稿本類が数多く残されており、それらを原資料にもとづいて検証することが必要となっている。

(3) 山口県文書館や同県内各地の資料館・図書館所蔵資料の調査を通じて、これまで知られていなかった談話筆記や回想録を発見し、写真撮影等を行い、そのリスト化と分析を進める。主な調査は、まず山口県文書館の「毛利家文庫目録」「諸家仮目録」を利用し、特に伝記編纂関係の「両公編年史料」「忠正公伝」「忠正公一代編年史」「忠愛公伝」「忠愛公伝史料」を調査対象として、さらにそれ以外の各種史料の調査・収集を進める。

(4) 高知県立図書館、同県佐川町青山文庫、宿毛市立宿毛文教センター・宿毛歴史館などに出張して、土佐藩関係者の談話筆記を調査・収集する。特に青山文庫では、田中光顕が寄贈した各種史料を閲覧・筆写し、田中の談話筆記や伝記類の裏づけとなる各種資料の調査を行う。同県出身の政治家である大江卓や林有造・片岡健吉らの回想録・伝記類に関係した史料・文献を収集する。

(5) 山口県文書館所蔵の各種談話筆記や回想録、県立図書館所蔵の「防長史談会雑誌」などの分析を通じて、新たに発見された問題点を整理し、長州藩の幕末維新の正史ともいえるべき『防長回天史』、長州藩関係者の『松菊木戸公伝』『伊藤博文伝』『公爵山県有朋伝』、あるいは稿本段階の「忠正公一代編年史」などとの比較・検討を行う。

高知藩関係の田中光顕については、談話筆記の『維新風雲回顧録』『維新夜話』、伝記の『田中青山伯』『伯爵田中青山』などを検証し、出版物の史的意義と課題を検討する。田中は、幕末の志士として討幕運動に活躍し、新政権で兵庫県権判事、大蔵少丞、戸籍頭を経て、明治4年の岩倉使節団の理事官となり、帰国後に会計監督、陸軍少将、元老院議官、警視總監などを歴任し、明治31年から11年余にわたって宮内大臣の地位にあった。伊藤博文・木戸孝允・山県有朋らの知遇を受け、宮中政治家として大きな力を持ち続けた。田中は97歳の長寿を全うしただけに、数次にわたる伝記編纂が行われ、自らも回想録を残しており、それらの検証が必要となっている。

(6) 青森県史編纂室、弘前市立弘前図書館に出張して、弘前藩の戊辰戦争期に活躍し、弘前・青森両県政に参画した杉山龍江について、「杉山丕家文書」を調査し、特に戊辰戦争と明治9年の明治天皇の東北巡幸に関連した史料を写真撮影する。新聞等に連載された杉山龍江伝記類を収集し、その実録の把握と課題を分析する。

4. 研究成果

(1) 『史談会速記録』全46巻の整理を進め、特に王政復古、戊辰戦争、草莽隊、府県設置などの分類項目を設定し、各談話筆記の関連記事をパソコンに打ち込んだ。若干の追加作業を行うことで、談話者名、談話内容の主な西暦年、談話内容に関するキーワード、

主な登場人物、出身の藩または府県名、担当の幹事または聞き手などの検索が可能となる。

(2) 史談会幹事岡谷繁実の膨大な編纂活動の実態とその背景を具体的に分析した。館林市立図書館の寒香園叢書中の「繁実日記」「甲信鎮撫記」「秋元志朝国事尽力始末」「質問録」「浮世の夢」などの写真撮影を完了し、その成果を分類・整理してデータ化した。

(3) 「史談会速記録」などに掲載された岡谷繁実自身が参加した戊辰戦争期の草莽高松隊の結成、信州・甲州両国での活躍、解隊の実態を追究し、談話筆記の内容を具体的に検証してその成果を論文にし、学会や自治体の講座などで発表した。そこでは、高松隊が甲府から撤兵する経緯、撤兵の原因と横浜攻撃計画の関連性、同隊幹部の小沢一仙処刑の経緯など、「史談会速記録」の記述とその問題点を指摘している。

(4) 山口県文書館の各種文庫の調査を通じて、「村岡忠治他談話速記」「維新前後名士叢談」「維新戦役実歴談」「長藩御蔵版局の事」「品川先生追懐談集」「宍戸子爵家ヨリ出ル綴込物」「諸藩知事建白書」「姫路藩版籍奉還率先建議之顛末」「彰明会ニ於ケル廢藩置県ニ関スル元老談話」などの談話筆記、および各種の日記、小伝・略伝類の写真撮影を行った。また、山口市歴史民俗資料館や下関市立長府博物館の関係史料などを入手した。それらの写真史料の内容を分析することで、『松菊木戸公伝』や『伊藤博文伝』の記述に対して、新たな知見を提示することができた。

(5) 高知県佐川町の青山文庫で田中光顕関係史料の調査・収集を行い、田中の『維新風雲回顧録』『維新夜話』などの回想録、『田中青山伯』『伯爵田中青山』らの伝記類に関する史的検証を進めた。田中に関する史料は、多摩市の聖蹟記念館および茨城県大洗町

の幕末と明治の博物館に残されており、それらの関係史料との比較・検討を行い、その成果を論文にして公表し、また一部を公開講座で発表した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計4件)

①松尾正人「幕末の志士田中光顕と維新政権」『中央史学』33号, 82~108頁, 2010年, 査読有,

②松尾正人「明治の木戸孝允—「逃げの小五郎」と維新政権—」『駒澤大学大学院史学論集』37号, 1~6頁, 2007年, 査読有。

③松尾正人「多摩の戊辰戦争—仁義隊を中心に—」『近代日本の形成と地域社会』65~105頁, 2006年, 査読無。

〔学会発表〕(計11件)

①松尾正人「廃藩置県と近代日本」愛知県博物館協会講演会, 2010年3月8日, 愛西市佐織公民館。

②松尾正人「安政五か国条約と近代日本」日仏関連諸学会総合シンポジウム基調講演, 2008年9月26日, 財団法人日仏会館。

③松尾正人「多摩聖蹟記念館と伯爵田中光顕」多摩史談会公開講演会, 2009年8月1日, パルテノン多摩。

④松尾正人「幕末開国と近代日本」佐倉市開国150周年事業, 2008年1月1日, 国立歴史民俗博物館。

〔図書〕(計2件)

①松尾正人, シナノ印刷, 『幕末・明治期名家書翰草稿』, 2010年, 181頁

②松尾正人, 岩田書房, 『近代日本の形成と地域社会』, 2006年, 426頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松尾 正人 (MATSUO MASAHIRO)

中央大学・文学部・教授

研究者番号：00157265